

災害の備え

避難情報について

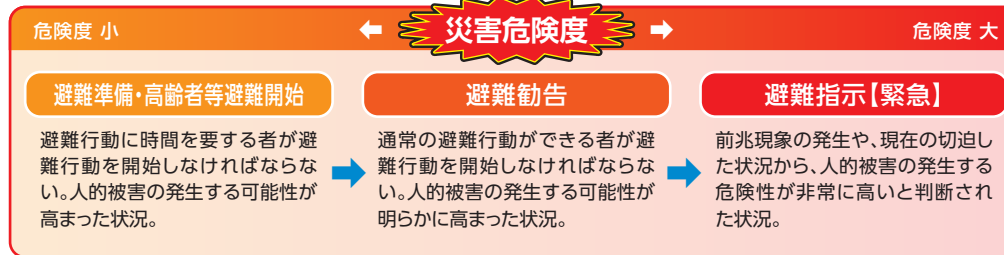
災害が発生したり、そのおそれがある場合に、町から気象情報や災害情報、避難命令（避難勧告・避難指示）が出されることがあります。避難命令は広報車・携帯電話のエリアメール等で周知するとともに、テレビ・ラジオでも放送されることがありますので、十分に注意してください。

また、危険を感じた場合などは、避難命令が出る前でも自主的に避難してください。

避難命令に従いましょう

避難命令は生命・身体・財産を災害から守るために、避難を勧めるものです。

中でも、子どもや高齢者など、避難するのに時間がかかる方は早めの避難が必要です。



自主防災組織について

自主防災組織とは『**自分たちの地域は自分たちで守る**』を理念とし、安心できるまちをつくるために、町民のみなさんが協力しあって防災活動を行う組織です。みんなで話し合い、できることから始めましょう。

❗ いっ起きるかわからないので家族で話し合い

家族の役割分担や災害ごとに避難場所を確認する。

※「**わが家の防災メモ**」（裏表紙）に書き込んでください。



❗ 避難場所・避難経路を確認する

防災マップに示されたあなたの近くの避難場所やその道順を確認しておきましょう。目印になるものを、おぼえておくとう便利です。



❗ 非常備蓄品・持ち出し品を準備する

いざという時のために、非常備蓄品や持出品を用意しておきましょう。裏表紙の「**非常持ち出し品・チェックリスト**」を参考に、応用代用を考えながら、家族で準備しましょう。



雨による危険度のチェックポイント

1時間雨量による雨と被害の目安

やや強い雨 (10～20mm)	強い雨 (20～30mm)	激しい雨 (30～50mm)	非常に激しい雨 (50～80mm)	猛烈な雨 (80mm以上)
ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。	どしゃ降り。雨。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、崖崩れの心配もあります。	バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。	滝のように降り、地下に雨水が流れ込む場合や土石流も発生しやすくなります。	息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。

江差町過去の例

江差町では、過去に「非常に激しい雨」に相当する68.5mm（1975年9月8日）の最大1時間降水量を観測しています。

また、近年では「激しい雨」に相当する43.5mm（2010年8月11日）、50.0mm（2012年9月9日）の最大1時間降水量を観測しています。

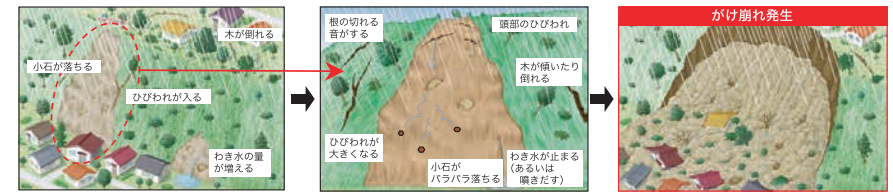
❗ 集中豪雨に注意!!

集中豪雨とは短時間に集中して狭い地域に多量の雨が降る事で「ゲリラ豪雨」とも言われています。大気的不安定な状態が続いている時や台風が近づいている時、上陸した時などに発生します。台風などと異なり予測が困難であり、突発的に多量の雨が降ることから、河川のはん濫や土石流などの被害が起きやすいため、気象情報に十分注意しましょう。

土砂災害に備える

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

❗ こんな前ぶれ現象に注意!!

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場・消防署・警察署へ通報してください。

- | | | |
|----------------------|--------------------|---------------|
| ●山鳴りがする | ●地面にひび割れができる | ●小石がパラパラ落ちてくる |
| ●雨が降り続けているのに川の水位が下がる | ●川の流れが濁り流木が混ざりはじめる | ●斜面から水がふき出す |

津波災害に備える

津波注意報・警報の種類

	予想される津波の高さ	
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の場合の表現
大津波 警報	10m 超 10m<高さ	巨大
	10m 5m<高さ≤10m	
	5m 3m<高さ≤5m	
津波 警報	3m 1m<高さ≤3m	高い
津波 注意報	1m 20cm≤高さ≤1m	(表記しない)

❗ 津波情報に注意!!

日本海沿岸で起こる地震による津波の情報は、地震発生後2～3分程度で発表されます。津波情報は予想される津波の高さで津波注意報、警報に分けて発表されますので、津波情報には十分注意してください。

津波の注意点

津波は繰り返して来る! 3波 2波 1波 津波は繰り返してきて、はじめの波より後に来る波が高くなる場合があります。警報・注意報が解除されるまで避難を続けましょう。	津波のスピードは速い! 津波の速度は海岸付近でも時速36km（秒速10m）程度もあるので、津波を見てから避難をはじめたのでは間に合いません。	津波の高さに注意! 海岸の地形などによって予想された津波の高さを超える津波が発生する場合があります。
引き潮がなくても注意! 津波は引き波ではじまるとは限りません。地震の起こり方や津波の発生した場所によって最初に大きな波が押し寄せる場合があります。	満潮時は要注意! 満潮時は水位が高くなっているので、津波がより大きくなります。	弱い地震でも要注意! 弱い地震でも揺れが長く続いたときなどは津波が襲ってくる可能性があります。